

日新工業

太径ナゲツト加工対応

アルミ電線 切断分離機を更新

非鉄金属およびプラスチックのリサイクルを手掛ける日新工業（本社＝東京・有楽町、中村一敬社長）は、事業拠点である中央ヤード（埼玉県深谷市）の鋼心アルミより線（ACSR）切断分離機を更新する。これにより、これまで対応できなかった太径のアルミ電線のナゲツト加工ができるようになり、作業効率が向上する。更新費用は約2000万円。

月産能力250―300トンに増



ヤードに置かれた鋼心アルミより線



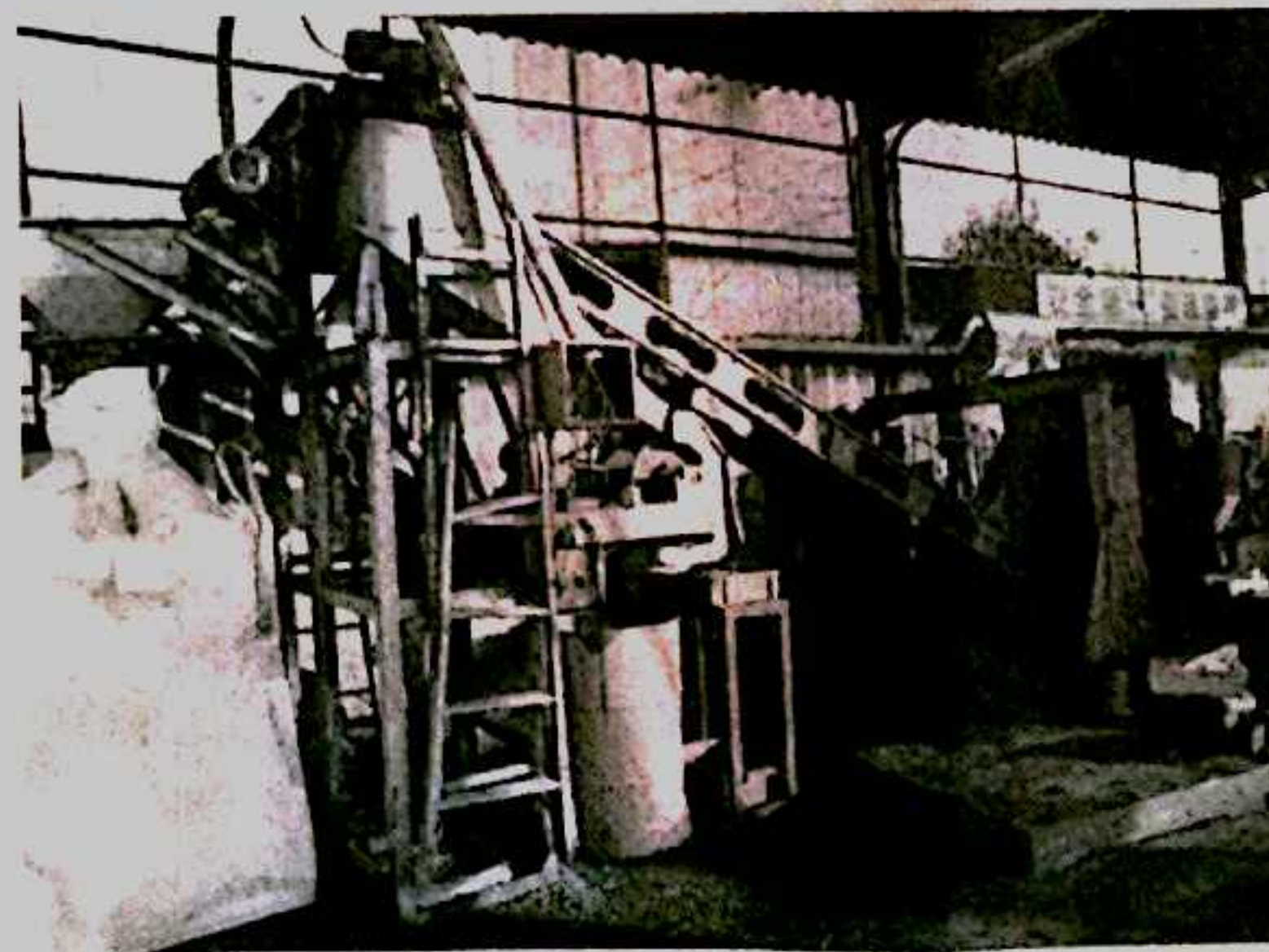
中村社長

新型の切断分離機は来週に導入、稼働を開始する予定。太径のものはこれまで前処理が必要だったが、導入設備では1050スクエア（導体断面積1050平方センチ）の太径までの処理が可能となる。生産能力は月間250―

300ト。従来の切断分離機は使用開始から27年が経過し、老朽化が進んだため更新を決めた。

足元のアルミナゲツト生産量は月間150―200ト程度。アルミ電線の発生量はピーク時より減ったが、安定的な引き合いがある。また今後、電力事業の見直しに伴いアルミ電線の発生が増加する可能性もあるとみている。

ACSRは亜鉛めっき鋼線を中心に、硬アルミ線をより合わせた電線。長距離の送電線



従来のACSR切断分離機

などに使われている。ACSR切断分離機はこれを切断、アルミと鉄を分離し、40ミ程度（導体断面積）のナゲツトに加工する機械。

アルミナゲツトの純度は99・8%と非常に

高く、軽圧、アルミニウム合金、亜鉛ダイカストなどのメーカーに納入される。鉄ナゲツトは専門の業者に販売する。

日新工業の足元の取扱量（非鉄、プラスチックの合計）は月間5000―6000ト程

	6月	7月	9月
	下旬	下旬	1日
▽新切れ	171	165	160～165
▽63S	171	165	160～165
▽一品合金	158	153	148～153
▽印刷板	173	168	163～168
▽ベースメタル	188	190	185～190
▽機械鋳物	131	129	124～129
▽合金新	129	127	122～127
▽合金削り粉	113	111	106～111
▽缶プレス(A)	132	125	120～125

だ。「9月は前年同月を上回る水準の生産を計画」(メーカー筋)。自動車メーカーの正常生産の前倒しで、合金需要はさらに増加しそうな情勢。

月期)の5000―5000トを上回る水準で推移している。前期売上高は138億円だったが、今期は150億円を目指す。

同社は昨年からの輸出用雑線の選別を徹底するなど、品質への取り組みを強化している。製品の品質を上げることと顧客の信頼を獲得し、長期的には収益の底上げにつなげていきたい考えだ。

新聞記事の複製許諾は
本社IT事業局へご相談を
相談下さい。

新聞記事は著作権法で保護されています。著作権者の許諾を得ていないコピー、パソコンへのデータ取り込みなどは違法となります。業務上、コピーや記事のクリッピングが必要な場合は、大阪本社IT事業局 ☎06(6443)8550 にご相談下さい。